令和５年４月７日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第13週(３月27日～ ４月２日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(令和５年３月)
- 新型コロナウイルス感染症への対応について

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点あたり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.53	(5.68)	↘	↘	↓	↗
2	インフルエンザ	2.84	(6.09)	↓	↓	↓	↓
3	RS ウイルス感染症	0.29	(0.59)	↘	↗	↓	↓
4	突発性発しん	0.24	(0.24)	→	↑	↓	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.18	(0.38)	↘	→	↓	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

第 13 週の新型コロナウイルス新規感染者数は 369 名と、第 12 週の 490 名より減少しています。年齢別の感染状況では、最も多いのは 50 代が 60 名(16%)、次に 40 代が 57 名(15%)で、20 代 43 名(12%)、60 代 42 名(11%)、70 代 40 名(11%)および 30 代 39 名(11%)と続きます。全世代で幅広く感染しています。

インフルエンザの患者報告数は 2.84 まで減少しましたが、定点あたり報告数が 1.0 を下回るまでは注意が必要です。

春先は新学期や新生活でストレスが生じやすい時期で、体の抵抗力が弱まる可能性があり、学校や保育園、幼稚園などの集団生活で感染症にかかりやすくなる心配があります。生活リズムを整えて新年度を迎えましょう。

❖病原体(ウイルス)検出情報(令和５年３月)❖

＊ウイルス分離同定日での集計結果

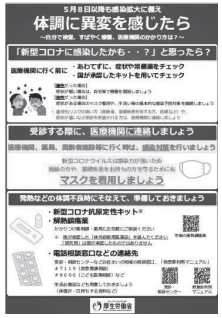
検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ	AH3	4	7			インフルエンザ(11)

✤新型コロナウイルス感染症への対応について✤

令和５年５月８日から、新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけが変更されます。

症状から新型コロナウイルス感染症に罹患した可能性がある場合は、落ち着いて次のような行動をお願いします。

医療機関に行く前に
・あわてずに、症状や常備薬チェック
・国が承認したキットを用いてチェック
【陽性だった場合】
症状が軽い場合は、自宅等で療養を開始しましょう
【陰性だった場合】
症状がある場合のマスク着用や、手洗い等の基本的な感染予防対策を継続しましょう



令和５年４月14日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第14週(４月３日～ ４月９日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.12	(4.53)	↘	→	↘	↘
2	インフルエンザ	1.51	(2.84)	↓	↓	↓	↓
3	RS ウイルス感染症	0.68	(0.29)	↑	↗	↑	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.44	(0.18)	↑	↑	↘	↑↑
5	突発性発しん	0.24	(0.24)	→	→	↑	→

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

第 14 週の新型コロナウイルス新規感染者数は 507 名で、第 13 週の 369 名より 138 名(37%)の増加となっています。年度替わりの時期で人が集まる機会が増えたこと、旅行や引っ越しにともなう人の移動が活発化していることの影響なども考えられます。また、観光に来県される海外からの旅行者の姿を多く見るようになりました。人々の行動の変化をふまえ、引き続き感染状況を注視しています。

インフルエンザの報告数は減少が続き、定点あたり 1.51 となっています。これまでに保健研究センターで検出されているのは季節性インフルエンザの AH3 型です。

空気が乾燥していると気道や鼻腔粘膜の防衛機能が低下し、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザを含む呼吸器感染症に感染しやすいと言われています。乾燥している時期にマスク着用は有効な予防対策となります。

✤小児科外来情報✤

北部地区(田中小児科医院)

新型コロナウイルス陽性例はなかった。インフルエンザは減少している。
RS ウイルス感染症とノロウイルス腸炎は引き続いて見られる。
他の届出疾患はなかった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

コロナ、インフルエンザともに減少した。
高熱例はあるが検査は陰性。嘔吐の感染性腸炎も見られるが僅か。
他の感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は減少している。
インフルエンザ A 感染症の流行は続いているが、陽性者は減少傾向にある。
B 型の流行はみられていない。
ノロウイルス性胃腸炎の流行も続いているが、同様に減少傾向にある。
RS ウイルス、ライノウイルス、パラインフルエンザウイルス等の感染は散見されている。

令和５年４月 21 日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第 15 週(４月 10 日～ ４月 16 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 海外旅行をされる皆様へ
- ３月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.94	(5.12)	→	↘	→	↗
2	RS ウイルス感染症	2.12	(0.68)	↑↑	↑↑	↑↑	↓
3	インフルエンザ	1.00	(1.51)	↓	↓	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.56	(0.44)	↑	↑	→	↑↑
5	突発性発しん	0.29	(0.24)	↗	↘	↑	→

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

第 15 週の新型コロナウイルス新規感染者数は 611 名で、前週の 507 名より 104 名(21%)増加しています。

インフルエンザの定点あたり報告数は減少が続き、1.0 となりました。隣接する府県においても減少傾向にあり、今シーズンの流行は収束に向かっていると考えられます。

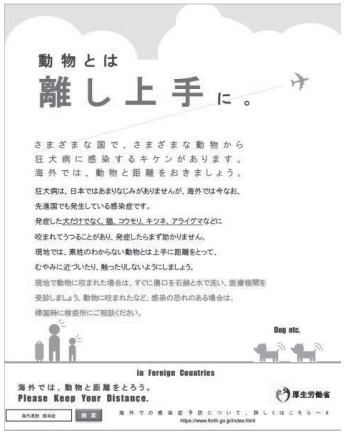
RS ウイルス感染症の報告数が、県北部地域と中部地域では第 14 週と比較して 2 倍以上に増加しています。この疾患は、乳幼児の肺炎や気管支炎の主要な原因とされており重症化することもあります。奈良県における定点あたり報告数は、2021 年では第 21 週(5 月 24 日～5 月 30 日)の 10.65 が、2022 年では第 31 週(8 月 1 日～8 月 7 日)の 5.35 がピークでした。しばらくは油断せず、とくに小さな子どもがいる家庭では体調管理と手洗いなどの感染予防に努めましょう。

❖海外旅行をされる皆様へ❖

まもなくゴールデンウィークです。久しぶりに海外旅行を計画されている方もおられるのではないでしょうか。海外には、黄熱やマラリア、デング熱をはじめとする日本にはない病気があります。海外で感染症にかからないようにするために、感染症に関する正しい知識と予防方法を身に付けましょう。海外旅行では、時差や気候の違いなどから様々なストレスを受けて免疫力が低下し、病気にかかりやすくなっています。無理のないスケジュールで心身への負担を軽くし、病気を媒介する可能性のある動物との適切な距離を保つなど、自身の健康を保つための注意が大切です。

厚生労働省検疫情報管理室が運営する Web サイト「FORTH(FOR Traveler's Health)」では、海外の感染症の最新の流行状況や予防方法などの情報を掲載しています(https://www.forth.go.jp/index.html)。一度確認されることをおすすめします。

しっかりと準備をして、すばらしいゴールデンウィークをお過ごしください。



令和５年４月 28 日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第 16 週(４月 17 日～ ４月 23 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.76	(4.94)	→	→	→	↑↑
2	RS ウイルス感染症	2.59	(2.12)	↑↑	↑	↑↑	↑↑
3	インフルエンザ	1.16	(1.00)	↓	↓	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.53	(0.56)	↗	↗	↑	→
5	手足口病	0.29	(0.15)	↑↑	↑↑	↑↑	→

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

第 16 週の新型コロナウイルス新規感染者数は 792 名で、前週の 611 名より 181 名(30%)の増加となりました。5 月 8 日から感染症法上の 5 類感染症へと移行する予定ですが、引き続き個人でできる感染予防に努めましょう。

RS ウイルス感染症の定点あたり報告数が主に県中部地区で増加しており、これから流行が拡大する可能性があります。小さい子どもがいる家庭では油断せず、手洗いの励行やマスク着用などの対策をとることが大切です。

インフルエンザの報告数は先週から横ばいとなっています。

今は寒暖の差が大きく、身体へのストレスのために免疫力が落ちやすい時期です。さらに大型連休中は生活リズムが乱れやすいので、体調管理に注意して感染症への備えをしていただきたいと思います。

✤小児科外来情報✤

北部地区(田中小児科医院)

RS ウイルス感染症が続いている。感染性胃腸炎も見られた。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

発熱、咳嗽の感冒症状の例が増加。

COVID-19 陽性例はほとんど見られないが、1例のみ見られた。家族内感染などに進展せず感染力が強い印象ではない。

インフルエンザは僅かずつ持続、増加傾向にはない。

感染性腸炎が流行中、ノロ陽性例もある。

他の感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症の発生は少ない。インフルエンザの流行も落ち着いてきている。

ウイルス性胃腸炎はまだ流行が続いており、管内小学校では学級閉鎖もみられる。

遷延する呼吸器感染症からは RS ウイルス、ヒトライノウイルスが検出された。

次回週報は、令和５年５月９日(火)に発行します。

令和５年５月９日(火)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第17週(４月24日～ ４月30日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(４月)
- 屋外ではマダニに注意しましょう

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.71	(5.76)	→	→	↗	↓
2	RS ウイルス感染症	2.38	(2.59)	↑	↑	↑	↑↑
3	インフルエンザ	0.76	(1.16)	↓	↓	↓	↓
4	手足口病	0.50	(0.29)	↑↑	↑↑	↑↑	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.35	(0.53)	→	↘	→	→

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

第 17 週の新型コロナウイルス新規感染者数は 787 名で、前週の 792 名からほぼ横ばいです。

インフルエンザの感染者は、定点あたり報告数が 0.76 となりました。今シーズンの流行は収束傾向と考えられます。

RS ウイルス感染症の報告数が、県北部地区と中部地区でやや多い傾向が続いています。重症化しやすい乳幼児のいる家庭では手洗い等の感染防止への配慮をお願いします。

手足口病の報告数が、県北部地区と中部地区で増加傾向にあります。手足口病は、手、足および口腔粘膜などに現れる水疱性発疹が特徴のウイルス性感染症で、感染経路は接触感染と飛沫感染と言われています。患者から検出されるウイルスには多様性があり、流行における主要なウイルスは年によって異なります。主に夏季に流行がみられるため、これからの季節には注意が必要です。

❖病原体(ウイルス)検出情報(令和５年４月)❖

＊ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ	AH3	4	3			インフルエンザ(7)

❖屋外ではマダニに注意しましょう❖

若葉が美しい季節になりアウトドア活動などに出かけたくなりますが、気をつけていただきたいことがあります。春から秋にかけては吸血性のマダニの活動が盛んになり、屋外レジャーや農作業等でダニの生息場所に立ち入ることで咬まれる機会が増加します。ダニが病原体を保有していると、咬まれた人が病気を発症するおそれがあります。日本ではライム病や日本紅斑熱などのダニ媒介性感染症が発生しており、草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る場合には注意しましょう。服装は、長袖・長ズボン(シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する)、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。

もし、マダニに咬まれた場合は、つぶしたり無理に引き抜いたりせず、すみやかに皮膚科等を受診し処置を受けてください。その後数週間は体調の変化に注意し、発熱等の症状があれば医療機関で診察を受けましょう。

令和５年５月12日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第18週(５月１日～ ５月７日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- ４月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.53	(5.71)	↘	↘	↘	↓
2	RS ウイルス感染症	2.03	(2.38)	↗	↗	↗	↓
3	インフルエンザ	0.58	(0.76)	↓	↓	↓	↗
4	突発性発しん	0.24	(0.32)	→	↗	↘	↓
5	咽頭結膜熱	0.21	(0.21)	↗	↗	↗	→

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

第 18 週の新型コロナウイルス新規感染者数は 720 名で、前週の 787 名からやや減少しました。新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことに伴い、第 19 週からは定点医療機関からの報告に基づく患者数を掲載していきます。

感染性胃腸炎は減少傾向です。季節柄、食中毒にもご注意ください。

RS ウイルス感染症の報告数が、県北部地区および中部地区でやや多い傾向が続いています。引き続き乳幼児の感染には注意してください。

インフルエンザは、流行終息に向かっていると考えられます。これまでに保健研究センターで検出された 2022/2023 シーズンのウイルスは、すべて AH3 型でした。

そのほかの定点報告対象疾患の報告数は少ない状況ですが、これからも新型コロナウイルス感染症に加え、手足口病やヘルパンギーナといった夏季に流行しやすい感染症への注意を怠らないことが大切です。

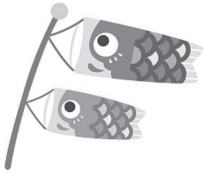
✤小児科外来情報✤

北部地区(田中小児科医院)

RS ウイルス感染症は続いている。兄弟間で感染し学童にも発症者がいる。

感染性胃腸炎も続いている。インフルエンザ陽性者はいない。

報告疾患に当たらないが高熱が 5 日間程続く感染症が見られる。



中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19 陽性者は減少したが今週に父と子2例、別家族女性1例の3例があった。今後の増加傾向に注意必要。

インフルエンザ A 型が僅かずつ見られる。

感染性腸炎が流行中。呼吸器感染例も少なくなった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は少数散見されるのみで落ち着いている。

インフルエンザも減少が続いている。B 型の流行はみられていない。

胃腸炎は嘔吐例を中心に流行が続いている。

遷延する呼吸器症状患者からはヒトライノウイルス、パラインフルエンザウイルス、RS ウイルス等が検出された。

令和５年５月 19 日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第 19 週(５月８日～ ５月 14 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 蚊が媒介する感染症について

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	7.06	(3.53)	↗	↑	↗	↘
2	RS ウイルス感染症	2.65	(2.03)	↗	↗	↗	↑↑
3	新型コロナウイルス感染症	2.55	－	※	※	※	※
4	A群溶連菌咽頭炎	0.97	(0.12)	↑	↑	↑↑	↗
5	インフルエンザ	0.64	(0.58)	↘	↓	↑	↗

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少
※新型コロナウイルス感染症の増減は、第 24 週から表示できます

❖県内概況❖

第 19 週の新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は、2.55 でした。5 月 8 日から感染症法上の五類感染症(定点把握対象)となり、患者の全数報告から定点あたり報告数へと調査方法が変更されました。今後も引き続き、発生動向の把握を行っていきます。

感染性胃腸炎の報告数が増加しています。感染性胃腸炎は、多くがノロウイルスやロタウイルスなどウイルス感染が原因ですが、気温が上昇する時期には細菌感染によるものにも注意が必要です。しっかりと手洗いすることや衛生的な食品の取り扱いを心がけましょう。

RS ウイルス感染症の報告がやや増加傾向です。これから流行が拡大する可能性がありますので、特に乳幼児がいる家庭や施設では感染予防に注意が必要です。

❖蚊が媒介する感染症について❖

これから夏に向かう時期となり、人間だけでなく動物や昆虫などの活動も活発化しています。すでに蚊に刺された方もおられるのではないでしょうか。

蚊は身近な昆虫ですが、病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症があります。主な疾患は、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎、ウエストナイル熱、黄熱、原虫疾患であるマラリアなどです。日本脳炎以外は海外からの輸入感染症としてみられますが、デング熱に関しては 2014 年に国内感染例がありました。海外との交流が活発化すると、輸入感染症も増加するおそれがあります。

発症してからの治療は対症療法が中心となるため、まず蚊に刺されないための対策が重要です。屋外の蚊が多くいる場所で活動する場合は、できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用するなど、蚊に刺されないよう注意してください。また、身の回りで蚊の発生源となる放置された水たまりなどをなくすことも大切です。

日本脳炎は不活化ワクチンによる予防接種、マラリアは医師の処方による予防内服が有効です。

令和５年５月 26 日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第 20 週(５月 15 日～ ５月 21 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	7.50	(7.06)	↗	↑	↗	↓
2	RS ウイルス感染症	3.79	(2.65)	↑	➔	↑	↑↑
3	新型コロナウイルス感染症	3.33	(2.55)	※	※	※	※
4	ヘルパンギーナ	1.71	(0.29)	↑↑	↑↑	↑↑	➔
5	A群溶連菌咽頭炎	0.94	(0.97)	↑	↑	↑	➔

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少
※新型コロナウイルス感染症の増減は、第 24 週から表示できます

❖県内概況❖

感染性胃腸炎の報告数がやや増加しています。RS ウイルス感染症も増加が見られるので注意が必要です。手洗いなど、基本的な感染予防を心がけてください。

新型コロナウイルス感染症の報告数は第 19 週よりも増えており、動向を注視しています。

ヘルパンギーナの報告数が急増しました。ヘルパンギーナは、いわゆる「夏かぜ」の代表的疾患で、主な原因はコクサッキーA 群ウイルスである場合が多いです。ウイルスは唾液、鼻汁、便などに含まれ、感染経路には咳やくしゃみによる飛沫感染と手などを介して口、目の粘膜に侵入する接触感染があります。症状は、2～4 日の潜伏期間の後、突然の発熱に続き咽頭痛、口腔内の水疱や発赤が現れます。水泡が破れると痛みを伴い食事や水分を摂ることが難しくなるため、食事を柔らかく薄味にするなど工夫して水分補給することが大切です。

✤小児科外来情報✤

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19 感染症は少数あり。RS ウイルス感染症は COVID-19 より多い。
ヘルパンギーナ例があった。感染性胃腸炎は続いている。インフルエンザは無かった。
紹介した入院例ではパラインフルエンザが検出されていた。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

発熱、咳嗽の例が増加、幼稚園児が多く RS など検査実施せず。
咳嗽は頻回、痰がらみ、経過遷延例も多い。家族内感染もあり、母子例もあった。
COVID-19 は再びわずかに増加。8 ヶ月の発熱を主訴の例で、問診により家族中短期の発熱があり、結果、児は COVID-19 陽性であったが、軽症経過で COVID-19 の認識が薄く丁寧な問診が必要。
インフルエンザは減少した。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は増加傾向がみられだした。小児での症状は普通感冒と変わらず。
インフルエンザは減少しているが、まだ A 型が散見される。
RS ウイルス感染が増加。乳幼児での入院例も多い。
パラインフルエンザ 3 型やヒトライノウイルスもみられる。
ヘルパンギーナ、アデノウイルス感染もみられだした。

令和５年６月２日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第 21 週(５月 22 日～ ５月 28 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- エムポックスについて

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.65	(7.50)	➔	↗	➔	↓
2	RS ウイルス感染症	4.00	(3.79)	↗	➔	↑	↑
3	新型コロナウイルス感染症	3.29	(3.33)	※	※	※	※
4	ヘルパンギーナ	2.21	(1.71)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
5	A群溶連菌咽頭炎	1.32	(0.94)	↑	↑↑	↑	➔

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少
※新型コロナウイルス感染症の増減は、第 24 週から表示できます

❖県内概況❖

感染性胃腸炎の報告数は横ばいで、やや流行の状態が続いています。患者は幼児が主ですが、10 歳以上の報告もおよそ 17%(226 例中 39 例)含まれます。

RS ウイルス感染症の報告数はやや増加しており、報告された患者のおよそ 85%(136 例中 115 例)は 3 歳以下の乳幼児です。乳幼児は重症化しやすいため、感染予防への配慮が大切です。

新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は 3.29 で、第 20 週から大きな変化はありません。

ヘルパンギーナの報告数が急増しています。前週と比較すると、とくに県北部で増加が見られます。ヘルパンギーナには予防接種はなく、発症した場合は対症療法になります。手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染予防につとめましょう。

❖エムポックスについて❖

「エムポックスって、何？」と思われた方も多いかもしれません。これまで日本では「サル痘」とよばれていた疾患のことです。WHO は、2022 年 11 月 28 日に「monkeypox」に代えて「mpox」の使用を推奨し、1 年の期間をかけて移行すると発表しました。このことをふまえ、日本においても 2023 年 5 月 26 日に感染症法上の名称が「エムポックス」に変更されました。

エムポックスは、エムポックスウイルス感染による急性発疹性疾患で、感染症法では 4 類感染症に位置づけられます。主にアフリカ中央部から西部にかけて発生が見られましたが、2022 年 5 月以降は欧米を中心にアフリカへの渡航歴がない症例が報告されるようになり、2023 年 5 月 23 日時点で 8 万人以上の患者発生が報告される流行となりました。日本では、2022 年 7 月に患者が確認されてから散発的な発生が認められ、2023 年に入り患者報告数の増加が見られています。日本国内では 5 月 26 日公表時点で 163 例が報告されており、患者はすべて男性です。

典型的な症状は、6～13 日の潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹等の症状が数日続き、発熱から 1～3 日後に発疹が出現します。発症後、2～4 週間で治癒するとされています。

なお、エムポックス常在国外で見られた症例では、皮疹の特徴や症状の経過でこれまでとは異なる所見が報告されており、注意が必要です。疑わしい症状があれば、まず医療機関に相談してください。

令和５年６月９日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第 22 週(５月 29 日～ ６月４日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.94	(6.65)	➔	➔	➔	↑
2	新型コロナウイルス感染症	4.51	(3.29)	※	※	※	※
3	RS ウイルス感染症	4.35	(4.00)	↗	➔	↑	↑
4	ヘルパンギーナ	2.65	(2.21)	↑↑	↑↑	↑	↑↑
5	A群溶連菌咽頭炎	1.50	(1.32)	↑	↑	↑	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少
※新型コロナウイルス感染症の増減は、第 24 週から表示できます

❖県内概況❖

感染性胃腸炎の報告数は、引き続き高い数値で推移しています。細菌が増えやすい高温多湿の季節を迎えますので、食品の管理には気をつけましょう。

新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は、第 21 週よりも増えており、動向を注視しています。

RS ウイルス感染症の報告数は、依然として増加し続けています。例年は秋から流行しますが、令和3年4年は5月6月以降に増加傾向となっています。乳幼児に加え、高齢者においても重症の下気道炎の原因となるので、周囲への感染予防への配慮が大切です。

ヘルパンギーナの報告数が、3 週にわたり急増しています。主に「コクサッキーウイルス A 群」が原因で、ウイルスの型がいくつかあるので、何度もかかってしまうことも珍しくありません。飛沫感染に加え、おもちゃや食器(コップ・スプーン)、タオルの共用(間接接触)でも感染がひろがるので注意しましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(田中小児科医院)

ヘルパンギーナが急増している。RS ウイルス感染症と COVID-19 感染症の流行が続いている。
長引く発熱と咳の呼吸器感染症が目立っており、入院例もある。
感染性胃腸炎はやや減少傾向か。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

発熱、咳嗽等の症状の例で外来数は増加。
COVID-19 感染症の陽性者が増加、感冒程度の症状例が多いが、家庭内波及が多くみられ、やはり感染力は強い様子。2 度目の感染例もあり。成人、および8歳児で見られた。症状は強くなかった。
インフルエンザは増加していない。
RS 気管支炎が続いて流行、やや増加傾向。2、3歳児にもみられる。
アデノウイルス陽性例が多く、成人でも見られる。
感染性胃腸炎も流行持続、短期の嘔吐が主で、下痢なしの例が多く、ノロウイルス様。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

パラインフルエンザ 4 型感染症が増加している。症状も強く、肺炎併発し入院例もみられる。
ヒトライノウイルス感染症、RS ウイルス感染症の流行も続いている。
COVID-19 感染症も増加してきている。小児での症状は普通感冒に近い。
ヘルパンギーナ、アデノウイルス咽頭炎も散見されている。胃腸炎も増加してきている。

令和５年６月 16 日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第 23 週(６月５日～ ６月 11 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(５月)
- 麻しん(はしか)患者の発生に伴う注意喚起について
- ５月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RS ウイルス感染症	5.15	(4.35)	↑	↗	↑	↓
2	感染性胃腸炎	5.00	(6.94)	↘	↘	→	↘
3	新型コロナウイルス感染症	4.64	(4.51)	※	※	※	※
4	ヘルパンギーナ	4.06	(2.65)	↑↑	↑↑	↑	↑↑
5	A群溶連菌咽頭炎	2.12	(1.50)	↑	↑	↑	↘

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少
※新型コロナウイルス感染症の増減は、第 24 週から表示できます

❖県内概況❖

RS ウイルス感染症の報告数は増加を続けており、大流行しています。特に県中部で増加が見られます。引き続き、感染予防を心がけましょう。

一方、感染性胃腸炎の報告数は、第 22 週からやや減少しており、隣接する府県においても減少傾向となっています。

新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は 4.64 で、第 22 週の 4.51 から大きな変化はありません。

ヘルパンギーナの報告数が、4 週にわたり急増しています。ヘルパンギーナは、治った後もしばらくは、便にウイルスが排出されています。排便後やおむつを交換したあとは、石けんによる手洗いを心がけましょう。

❖病原体(ウイルス)検出情報(令和５年５月)❖

＊ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ	AH3	2				インフルエンザ(2)

❖麻しん(はしか)患者の発生に伴う注意喚起について❖

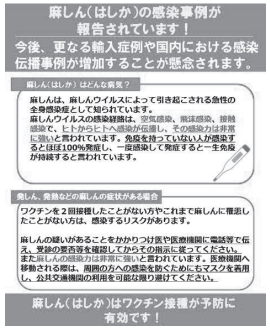
令和５年６月６日に大阪市内の医療機関より、麻しんの届出があり、当該患者が感染可能期間に大阪市内の施設を利用し、不特定多数の方に接触していることがわかりました。

奈良県は、大阪との往来が多く、今後、県内での感染伝播の可能性が危惧されます。

発疹、発熱などの麻しんのような症状がある場合や、麻しんに感染した疑いがある場合は、かかりつけ医や医療機関に電話等で伝え、受診の要否等を確認してからその指示に従ってください。

麻しんは、感染力が非常に強く、空気感染するので、手洗いやマスクのみでは予防できない感染症です。また、麻しんは、特に妊婦に感染すると流産早産の恐れがあるため、細心の注意が必要です。

予防法は、ワクチン接種が最も有効です。十分な免疫をつけるためには、2回の接種が必要です。2回のワクチン接種歴が明らかでない場合は、接種を検討してください。



出典:厚生労働省 HP

令和５年６月 23 日(金)発行

奈良県感染症情報

令和５年 第 24 週(６月 12 日～ ６月 18 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	ヘルパンギーナ	5.59	(4.06)	↑↑	↑↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	5.56	(5.00)	→	→	↘	→
3	新型コロナウイルス感染症	5.40	(4.64)	↗	↗	↑	↗
4	RS ウイルス感染症	4.79	(5.15)	↗	→	↗	→
5	A群溶連菌咽頭炎	1.59	(2.12)	→	→	↗	↘

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

ヘルパンギーナの報告数が、5 週にわたり急増しています。ヘルパンギーナの主な原因である「コクサッキーウイルス A 群」は、ノンエンベロープウイルスであり、アルコール消毒剤に対する抵抗力が高いため、流水とせっけんでしっかり手を洗い、ウイルスを落とす等の感染対策が必要になってきます。

感染性胃腸炎の報告数は、前週から横ばい傾向となっています。夏期は汗を多くかくため、脱水症状が起きやすい時期です。嘔吐や下痢の症状が激しい場合は、注意しましょう。

新型コロナウイルス感染症の報告数は、やや増加傾向となっており、隣接する府県についても、同様に増加傾向となっています。手洗いや換気、マスクの効果的な場面での着用など、基本的な感染対策に取り組みましょう。

RS ウイルス感染症の報告数は、前週から減少しましたが、流行しています。引き続き、感染予防を心がけましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(田中小児科医院)

幼児の発熱者の殆どはヘルパンギーナで、咳を伴う者では RS ウイルス感染症が多い。

学童では COVID-19 が見られる。溶連菌感染症の学童がいた。

病院への紹介を必要とする気管支炎、気管支肺炎が散見された。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

発熱、感冒症状、種々の夏風邪の例で外来数は増加中。

COVID-19 陽性が散見程度ではあるが僅かに増加傾向。症状は短期の発熱など軽症。

インフルエンザは見られなかった。

幼児を中心として、アデノ、ヘルパンギーナ、手足口病など夏風邪が流行、RS ウイルスも流行中で 3～5 歳児にもみられる。

感染性腸炎も流行、ノロ様の嘔吐が多いが、水様下痢の例もある。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は散見されるも急増してきていない。小児では比較的軽症で経過している。

インフルエンザの流行は落ち着いた。遷延する呼吸器症状の小児からはパラインフルエンザ、ヒトライノウイルス、RS ウイルスが検出されている。

ヘルパンギーナが増加している。手足口病の流行はみられない。アデノウイルス感染も増加してきている。

ウイルス性腸炎(迅速検査は各種陰性)が増加してきた。